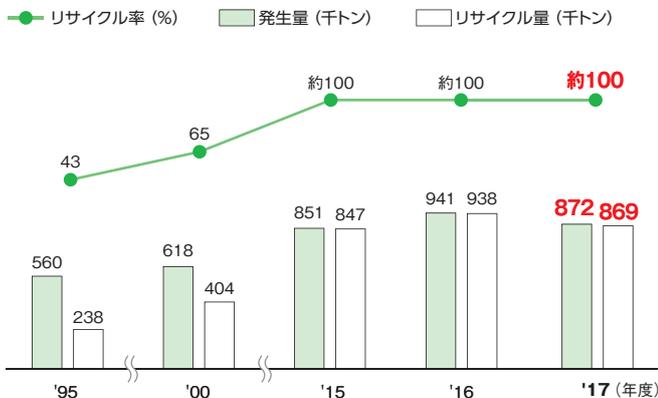


## ②循環型社会形成への取組み

### 九州電力の廃棄物ゼロエミッション活動(P37~38参照)

#### 産業廃棄物の発生量とリサイクル率の推移



#### 配電用資機材の再使用状況(2017年度)

項目(単位)	撤去数 <sup>(注)</sup> [A]	再使用数 [B]	再使用率 [B/A] (%)
柱上変圧器(台)	15,376	15,376	100
柱ガス開閉器(台)	543	543	100
低圧電力量計(個)	152,124	127,800	84
コンクリート柱(本)	7,291	7,291	100
高圧線(km)	593	593	100
低圧線(km)	944	944	100

(注)旧仕様・型式等により、再使用できないものや修理対象外のもの  
は除く

#### 古紙回収状況(2017年度)

	回収量 (トン)	主なリサイクル用途
新聞 <sup>(注1)</sup>	71	用紙(コピー紙、カタログ紙など)、新聞紙
雑誌	23	段ボール原紙、紙ひも
段ボール	62	段ボール原紙
機密文書	876	用紙(コピー紙、カタログ紙など)、トイレトペーパー、段ボール原紙
その他 <sup>(注2)</sup>	121	用紙(コピー紙、カタログ紙など)、トイレトペーパー、段ボール原紙、紙ひも
合計	1,153	

(注1)一部事業所では、雑誌、段ボールの回収量を含む

(注2)その他とは、コピー用紙、封筒など

(注3)四捨五入のため合計値が一致しない

### 発電所別廃棄物発生量、リサイクル量、リサイクル率(P37参照)

#### 火力発電所別の産業廃棄物<sup>\*</sup>(2017年度)

	発生量 (トン)	リサイクル量 (トン)	リサイクル率 (%)
新小倉	458	458	100
苅田	122,163	122,163	100
豊前	352	352	100
松浦	202,255	201,205	99.5
相浦	384	384	100
新大分	974	974	100
荅北	518,261	516,528	99.7
川内	323	323	100
計	845,170	842,387	99.7

<sup>\*</sup>石炭灰、重油灰、汚泥、金属くずなど

#### 火力発電所別の一般廃棄物<sup>\*</sup>(2017年度)

	発生量 (トン)	リサイクル量 (トン)	リサイクル率 (%)
新小倉	25.8	4.0	15.5
苅田	10.1	10.1	100
豊前	9.2	5.8	63
松浦	300.5	8.8	2.9
相浦	2.3	1.5	65.2
新大分	29.4	10.3	35
荅北	11.8	7.7	65.3
川内	5.7	5.7	100
計	394.8	53.9	13.7

<sup>\*</sup>古紙、貝類など

## グループ会社の廃棄物ゼロエミッション活動

廃棄物については、リサイクル率を目標に設定し、その維持・向上にグループ一体となって取り組んでいます。

2017年度の産業廃棄物のリサイクル率は93%となり、目標である95%を下回りました。これは、リサイクル処理が困難な特別管理産業廃棄物の発生によるものです。

事務用品等については、環境負荷の少ない物品を優先して調達・購入するグリーン調達に努めています。

### ■ 廃棄物の発生状況

			2015年度			2016年度			2017年度		
			単位	会社数	目標	実績	会社数	目標	実績	会社数	目標
産業 廃棄物	発生量	千トン	38	—	150.8	38	—	121.8	38	—	136.8
	リサイクル率	%		95以上	93		95以上	93		95以上	93
古紙	発生量	千トン	46	—	1.0	44	—	1.0	46	—	1.0
	リサイクル率	%		93程度	95		93程度	98		93程度	93

### ■ 産業廃棄物の種類ごとの発生量及びリサイクル量の実績(2017年度)

廃棄物の種類	発生量	リサイクル量	リサイクル率
	千トン	千トン	%
燃えがら(石炭灰ほか)	6.8	6.6	約98
汚泥	9.0	8.7	約96
廃プラスチック類	1.1	0.8	約68
廃油	0.4	0.4	約91
金属くず	2.9	2.9	約99
ガラスくず及び陶磁器くず	2.3	1.5	約65
建設廃材	8.1	8.0	約98
ばいじん	94.4	94.4	100
特別管理産業廃棄物	5.1	0.7	約14
その他産業廃棄物(廃アルカリ・木くずほか)	6.7	3.9	約58
合計	136.8	127.6	約93

(注) 四捨五入のため合計値が一致しない